

シンガポール留学記

Singapore Immunology Network
Agency for Science, Technology and Research

村松 憲

(北海道大学大学院医学研究院皮膚科学教室)

私はシンガポールにある Agency for Science, Technology and Research (A*STAR) の Singapore Immunology Network (SigN) にある Florent Ginhoux 先生のラボで研究留学をさせていただいております。A*STAR は人的資源の少ないシンガポールにおいて、知識基盤型国家を目指し、世界クラスの研究開発を行うために 2002 年に設立された法定機関です。SigN はその中で免疫研究専門の施設となっています。

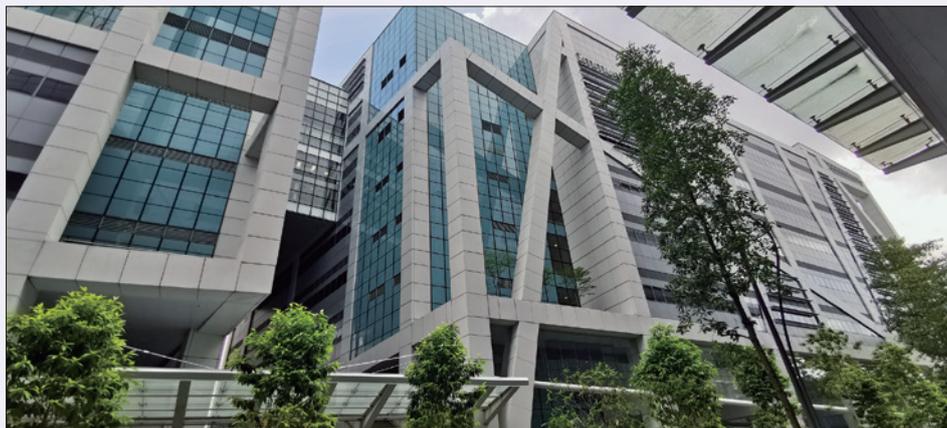
私は 2011 年に北海道大学医学部を卒業し、初期臨床研修を行い、2013 年から母校である北海道大学皮膚科で研鑽を積みました。2015 年から博士課程において研究を行ってまいりました。卒業後に自らの研究スタイルの確立のために必要な技術として、シングルセル解析が挙げられました。次世代シーケンサーの発展と、それを利用するコストの低下により、バイアスのかからない網羅的なデータの取得がシングルセルレベルで可能となってきています。そこで、Immunity や Nature Immunology に頻繁に名前がでてくる Florent Ginhoux 先生に直接連絡をとり、留学を OK していただきました。

私は北大ですっと研究しておりましたので、その環境が当たり前になり、ラボによって Protein や RNA の解析のどちらが得意かなどの特徴があることに留学してから気づきました。北大ではすぐにできたことが、こちらでは物品自体がないので取り寄せする必要があったりと（これは逆も然りなはずですが）、中々すぐには進まず、現在は実験系の樹立に邁進しています。系の確立後にシングルセル解析を行えることを楽しみにしています。ラボミーティングやジャーナルクラブなどが免疫系のポストドクにより行われるため刺激的な毎日を過ごしています。

シンガポールは多様性を受け入れる国で（代わりに厳しい罰則が有名ですが）、外国にいるのですが、疎外感を感じることは全くなく、大変気に入っています。北海道育ちの私は、熱帯の気候を心配していたのですが、案外慣れるのも早いもので、1 か月もしないうちに快適に過ごしています。新型コロナパンデミックの影響で生活に制限がありますが、これも早期に解消することを祈っています。

今回の留学は、資金を自分で獲得することを条件とされましたため、ご支援をいただきました上原記念生命科学財団の助成なしには成立しませんでした。心より感謝申し上げます。また、北海道大学皮膚科学教室で 10 年以上診療、研究について研鑽を積みさせていただきました。

した。その業績によりこの研究留学が実現しました。最後になりましたが、氏家英之教授ならびにご支援いただいた教室の先生方に心より御礼を申し上げます。今回の留学で学んだことを活かし、新規治療法の開発に貢献できるような成果をあげられるよう、精進して参ります。



SIgNが入っている Immunos 研究棟